



内山ゼミが 錦江湾高校で 高大連携事業 を実施



国際文化学部の内山仁准教授（教育学）とゼミ生 13 名が 11 月 4 日、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定されている鹿児島県立錦江湾高校を訪れ、課題探究に取り組んでいる普通科 2 年生にアドバイスをを行いました。

錦江湾高校では 2 年生の 4 月から、それぞれ興味のあるテーマで課題探究に取り組んでおり、2 月の最終発表までにさらに研究を深めようと本学との連携を企画。生命科学や自然科学、社会科学など、研究分野ごとに分かれた教室に数名の大学生が入り、高校生の研究内容を聞き、アドバイスをしました。

参加した学生は「テーマについて本人がどのように考えているのかを聞き、研究をより分かりやすく伝えるにはどうすればいいのかなどを高校生と一緒に考え

ることができた」「高校生が様々なことに興味・関心を持ち、研究を深めていることに刺激を受けた」などと感想を話しました。

錦江湾高校の多久島徹教頭先生は、「生徒たちが研究内容をアウトプットする貴重な機会になった。大学生が真剣に聞いて受け入れてもらえた経験が、今後の研究にプラスに働くのではないかと講評しました。



奄美大島の中学生 に英語俳句を指南



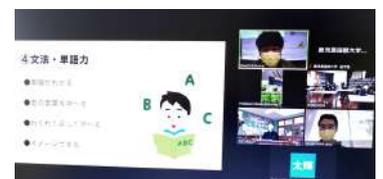
国際文化学部のマクマレイ・デビッド教授とゼミ生が 1 月 25 日、奄美大島の中学生とオンラインで交流し、英語俳句のレクチャーを約 2 時間にわたって行いました。参加したのは奄美市立住用中学校の生徒 10 名と奄美市立市中学校の生徒 1 名、先生方 5 名の合わせて 16 名。

初めにマクマレイ教授から英語で「楽しい時間にならしましょう」と挨拶があり、その後、英語俳句や写真俳

句の作り方について、パワーポイントの資料をもとに私たちが説明しました。生徒の皆さんは、様々な質問にしっかりと答えるなど熱心に参加し、英語教育のレベルの高さを感じました。

最後に行った英語俳句に関するクイズ大会『HAIQUIZ』は、奄美大島に関する俳句や写真を使って行いました。生徒の皆さんが笑顔で楽しそうに回答してくれて、参加型の授業の魅力も感じることができ、内容の濃い時間となりました。今回はコロナ禍に配慮しオンラインでの交流となりましたが、来年はぜひ奄美大島を訪問して交流したいと考えています。今回、ご協力・ご支援をいただきました中学校の先生方や生徒の皆様へ感謝申し上げます。

〔文：国際文化学部 2 年 原有輝，徳田 太輝〕



鹿児島県庁で「6次産業化」 「地方創生」セミナーを受講

経済学科 松本ゼミ

12月10日(金)、経済学科の松本ゼミ2年生・3年生が、文献学習の成果を深めることをねらいとして鹿児島県庁を訪れ、県政セミナーの受講と庁舎見学を行いました。

午前には農政部の「かごしまの食のブランド推進」「6次産業化」、午後には総合政策部の「地方創生」「かごしま未来創造ビジョン」をテーマにしたお話をうかがいました。学生の質問に対して県職員の方々から丁寧な回答をしていただき、貴重な学習の機会になりました。

「6次産業化すれば必ず質の高い商品を生産できると思っていたが、6次産業化に適していない分野もあることを知った。また、鹿児島県の6次産業化は質よりも量を優先しがちであるため、質を重視した高い付加価値の商品開発に取り組んでいくことが課題であることも理解できた」(2年生 中島直紀)



「かごしま未来創造ビジョンは広い分野の問題を取り上げているが、私たちをはじめ県民がこのビジョンや



県政について知らない点が多くあり、そのことが一つの問題だと感じた。自分が暮らしている県や市町村の取り組みについて、興味関心を持って情報収集しようと思った」(2年生 程内拓海)

「鹿児島の製品の魅力や強みを学べる良い機会になった。セミナー後に早速、紹介のあった『6次化じはんぎ』を鹿児島中央駅へ見に行ったら。かごしま未来創造ビジョンでは、SDGsの推進やデジタル化を取り入れ、時代と県民の意見に沿った取り組みがなされていることに感心した。今後、地方創生について学ぶ際にRESAS(地域経済分析システム)を活用してみたいと思った」(2年生 堂原歌乃)

担当の松本准教授は「今回は県政セミナーの後に議会庁舎の見学もできたため、県が実施する様々な政策について、議会を通して県民の声がどのように反映されているのか、政策の施行に不可欠な予算がどのように審議されるのかといったことを考えるきっかけにもなった。公務員を志望している学生にとっては、将来の仕事イメージするうえでも有意義なセミナーになったと思う」と、今回のゼミ活動を振り返りました。

天文館商店街の年末イベント にボランティア参加

経営学科 中西ゼミ

経営学科の中西ゼミ3年生12名が、12月11日(土)と12日(日)の2日間にわたり、天文館商店街の年末恒例のイベント「年末だよ!全員集合」にボランティアスタッフとして参加しました。

このボランティア参加は中西ゼミと天文館商店街振興組合連合会の連携により3年前より行われているものです。天文館商店街を訪れる大勢のお客様と接することを通して、同商店街にどのような人たちが訪れ、どのような人たちによって支えられているのかを知ること、地域への愛着を深めてもらうことを目的としています。

今回取り組んだのは、本イベントで行われる抽選会



に必要なアプリケーションをお客様が自身の携帯電話にインストールするのを支援する業務と、携帯電話上でアンケートに回答するのを支援する業務の二つです。お客様にはご高齢の方もいますし、その人柄も様々です。そのため、この支援業務の遂行にはとても高度なコミュニケーション能力が求められます。中西ゼミ生もその点をいち早く察知し、積極的にお客様にアプローチしていました。

中西ゼミ3年の池田真帆さんは「天文館商店街を様々な人柄のお客様が訪問し、この地がにぎわっていることを知った。自分にとって新発見の連続で、とても勉強になった」と語っています。